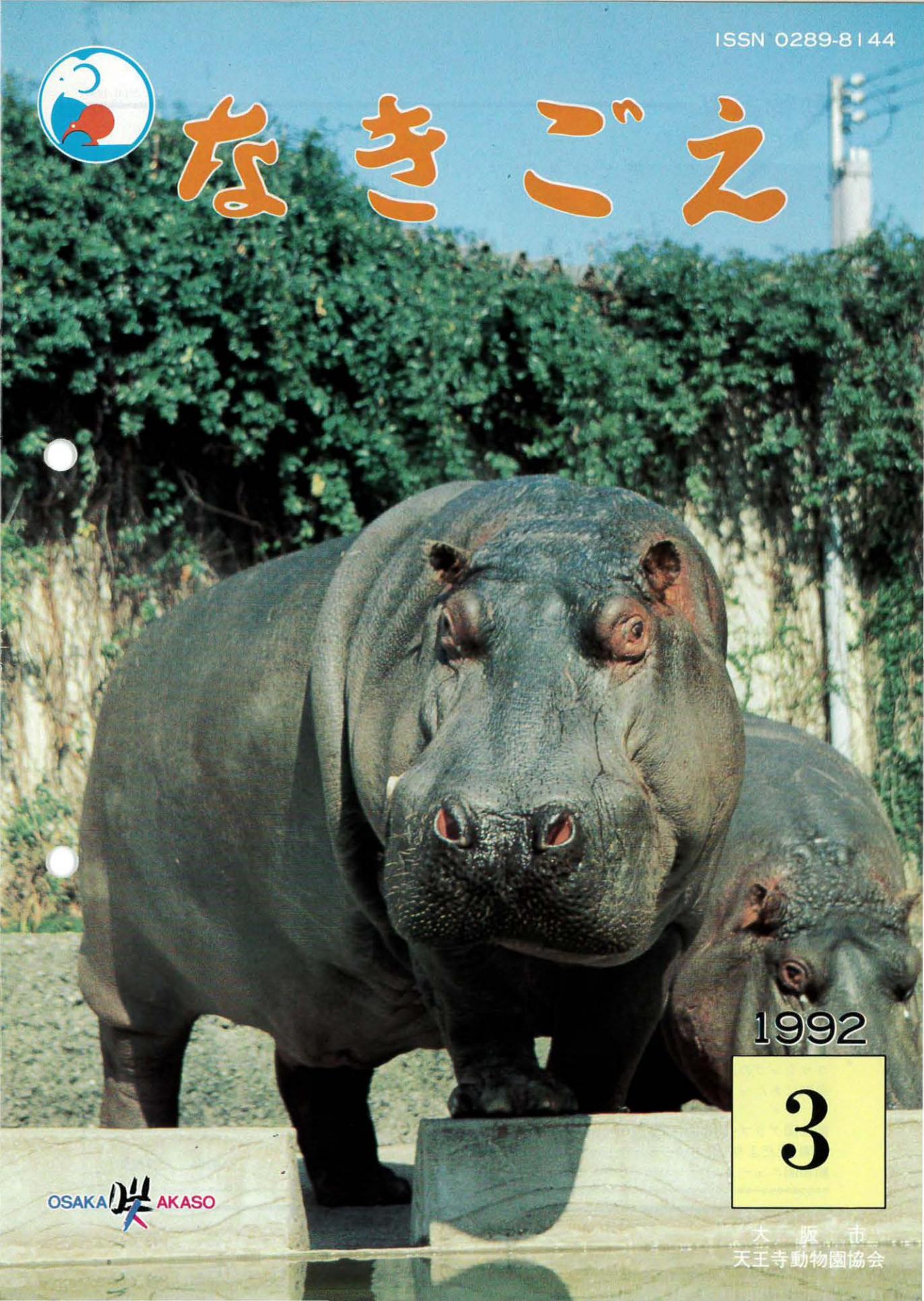




なきごえ



1992

3

当てっこゲーム



大谷美和子

自分は動物に例えると何だろうか、と話すことがある。「そらもう絶対に犬やわ」と自嘲気味に言うのは画廊をしている友人と、私。「シッポ振りまくって、もうちぎれそう」「いや、落ちてしまっているかもしれへん」そう言いながら手をそっと後ろへ。ない！やっぱり、落ちてしまったか。

それをそばで見ているもうひとりの友人は、ふんと鼻で笑う。彼女は完全な猫。いつもマイペース。人の出方を気にしない。愛想を振りまくなどは縁のない人。

彼女以外でも私の回りの人は圧倒的に猫族が多い。その気位の高さと、自由さが羨ましいが、どうしても私は猫になりきれない。だから猫族の人にすりよってしまうのだろうか。

彼女以外でも私の回りの人は圧倒的に猫族が多い。その気位の高さと、自由さが羨ましいが、どうしても私は猫になりきれない。だから猫族の人にすりよってしまうのだろうか。

そこでその抜け出したいと思っている犬型とはどんなのかと考えてみた。私を例にとってみるが、まず相手の機嫌を悪くすることを気にする。自分を少しおとしめても相手を喜ばせようとする。飼い主が帰ってくると狂喜し、転げ回るようにわんわんわんわんうれし鳴き。番犬みたいに、内から外をのぞき見ては、飼い主のお褒めをいただくとうと精一杯勤める。ああ、なんたるけなげな！でもなにやらわびしい。

さて後日談。画廊の友人は犬タイプの自分を改造しようとしてか、猫を飼った。彼女も私同様猫型に憧れながら、猫嫌いだっのに。

さっそく、「うらやましいわ、媚びるといことがないのよ」と報告してくれた。

「でもあなたの話を聞くと、猫の方が主顔しているみたいねえ」

「……むむっ、たしかに。つい、ご機嫌をとってしまふの、気に入られたくて私」

その話を別の友人にした。彼は猫族であるが、犬

を飼っている。

「犬というのは、よう喋りよるなあ」とポツリ。「は？」「あのお、僕が家帰ってくるやろ。とんできてまあよう喋りよること喋りよること」「どんなことを」「今日な、こんなことあってん、そいでな、こんなヤツ来よってんとか」「ふーん」「早よう話しとうてたまらんとこの感じでな、わんわんわん言う」「そう言うたら……」「あれ吠えてるんと違う、物言うてる。抑揚があるし、表情がある。話すほどのことのないときは、つまらなさそう顔して黙ってるしな」

私と一緒にやわと目を伏せた。そして友人知人の顔を思い浮かべた。

あの人は犬、あの人は猫、あれはネズミ、あれはバク、これはフラミンゴ、あの子はリス、あの人は、と考えていくうちにこの目で確かめなくなった。それで動物園に行った。

いるいる、あの人この人。動物園の檻の前に立つと次々に知っている人の顔が浮かぶ。

のたりのたりと歩くトラを見たたん、あつ、とその人の名前が口をつく。孤高を保つ彼らしい風格。歩きっぷりもいい、遠くを見る目つきもいい、そっくり。次はライオン。まさにあの人だ。雌ライオンを両脇に侍らせているわりにはつまらなさそうな顔。

猛禽類は最近の日本人に見当たらない。特に若い子の眼に力がないように思うね、なんてひとりごとを言いながら見てまわる。

雨の動物園はほとんど人がいない。金色の落ち葉があたり一面を敷きつめ、その上に音もなく雨が降り続ける。都会の真ん中であることを忘れそう。でも落ち葉の下は土ではない。日本中のいたる所がそうであるように、コンクリート。還元する自然のリズムを知らないまま育っていく子供達をふっと思った。

目を上げると、フクロウ。雨に打たれてじっとこっちを見ている。見つめ合っていたら、檻にいるのはどっちかを忘れてしまった。ふいにフクロウがつぶやいたように思った。

「我々の間ではねえ、何に似てるのかって問答するとだね、みんな一番いやがるのはね、何だと思う？」

「えーと、ハゲタカ」「違うね、それは他の動物達もどうやら同じらしい。畏れを忘れ、傲慢で、卑しくて、貪りつくし、知恵を失なったヤツ。それは、ヒト、だよ」
(児童文学作家)

表紙の写真説明

“カバ”

(Hippopotamus amphibius)

一日中ほとんど水の中ですごしますが、休園日、日なたで昼寝中おじやまし、起きたところをパチリと撮りました。

(撮影：大谷直樹)



“ブラジルバクの赤ちゃん誕生”

昨年12月20日に生まれたメスの赤ちゃんは「桜」と名付けられました。両親のボーイとマーガレットにとっては4頭目の子供です。

(撮影：吉本昌俊)

なぎごえ3月号もくじ
動物と私 2
“ブラジルバクの赤ちゃん誕生” 3
フラミンゴの湖 4・5
退職にあたって(西野) 6
(楠本) 7
動物園グラフ・動物園日記 8・9
公園・花だより ⑥ 10
動物園ニュース 11

柿澤亮三

私が初めてアフリカのケニアへ行ったのは1988年で、ナイロビでのアフリカ鳥学会に参加するためでした。空港ロビーで、それまでに見たこともないほど沢山のアフリカ人に囲まれ、アジアとはまったく違う異文化を感じ、クラクラと目まいを覚えました。私はアフリカから飼った鳥として日本に輸入される小鳥を調べて、アフリカ産のカエデチョウ科の類縁関係についての研究結果を発表しました。参加者はアフリカ各国、ヨーロッパ、アメリカからで、アジアからはインドが2名と日本から1人だけでした。発表者は欧米の研究者が多く、学問的にはアフリカはまだ植民地時代の影を引きずっているように思われました。

学会参加で一番楽しいのはエクスカージョン（遠足）です。気分をやすめるために学会の途中で、1〜2泊で遠足が計画されます。いくつもあるコースのなかから、フラミンゴの湖として世界的に有名なナクル湖へ行きました。アフリカのこともケニアのこともよく調べて行かなかったので、見るもの、聞くことすべてが驚きでしたが、百万羽のフラミンゴが息を吐くといわれるナクル湖のことは以前から知っていました。このフラミンゴを見るのが永年の夢でした。

東アフリカにはコフラミンゴとオオフラミンゴの2種類があります。名前の通り両種は大きさが異なります。ちょうど日本でのコサギとダイサギのような感じで、両種が一緒にいれば遠くからでも容易に識別できます。東アフリカではコフラミンゴの数の方が圧倒的に多く、1962年の算定では約400万羽が息を吐くとされました。一方、オオフラミンゴの息数は約5万羽でした。

東アフリカには、タンザニアからケニアを通過してエチオピアにまで達する、グレイトリフトバレーと呼ばれる深い谷が走っています。その谷の中にはま



ナクル湖畔のウ 1991年2月

わりの水が流れこんでできた湖がいくつも点在しています。これらの湖は流出河川をもたないため雨季

には水位が上がり、乾季には著しく水位が下がります。百万年ちかくもの年月の間に、まわりの火山岩からしみだしたソーダ分により、湖はソーダ湖となり、水は強いアルカリ性を示します。手をつけると少しぬるぬるした感じです。

このようなソーダ湖に住める生物はごく限られます。東アフリカのソーダ湖では藻類の一種スピリリナ（藍藻類）が大発生します。顕微鏡でなければ見られない小さな植物が互いに連なり、肉眼でやっと見えるぐらいの小さな藻玉のようになったものを、コフラミンゴが曲ったくちばしですくって食べます。フラミンゴの曲ったくちばしのふちには、小さな藻類を濾し取って食べられるように、細い櫛のようになっています。フラミンゴは風のふきだまりに流されてきた藻類やその死がい、ぐちょぐちょの泥と一緒にくちばしですくい上げ、水で洗いながら藻類を食べます。オオフラミンゴの餌はコフラミンゴと異なり、動物プランクトンが主食だと言われています。

コフラミンゴの主食のスピリリナの量はその地方の雨量などとも密接な関係があり、グレイトリフトバレーに点在するソーダ湖でも年によって、季節によって大きく変動しています。スピリリナの量の変化とともにコフラミンゴの大群は、グレイトリフトバレー内を餌を求めて移動します。



ナクル湖のモモイロペリカンの群 1991年2月

私たちが思うかべる大規模な鳥の移動というところ“渡り”ですが、コフラミンゴの移動は渡りとは異なります。渡りという言葉には、動物が季節ごとに特定の地域間を行き来するという意味がありますが、コフラミンゴの移動は季節ごとでもなく、特定の場所どうしでもありません。このコフラミンゴの移動は、“遊牧”と表現するのが一番よく当てはまります。

ナクル湖は美しい湖でした。ナクル湖周辺の地域は国立公園に指定されており、鳥類や野生動物が保護されています。アフリカの国立公園としては大変狭い部類に属し、公園の境界にはすべて電流を流したフェンスが張りめぐらされています。人や家畜の

侵入を防ぎ、公園内の野生動物が外へ出るのを防ぐためです。ナクル国立公園は人口約20万人のナクル市街地に隣接しているからです。人のひしめき合う町をぬけて一歩公園内に入ると、そこはもう別世界です。

公園内にはロッジが何か所かあり、外国人が自然観察（サファリと呼ぶ）を楽しんで、お湯のシャワーを浴び、キャンドルライトのもとでディナーを楽しみ、プールで泳ぐ。ナイロビからちょうど1泊2日のサファリにはてごろな場所なのです。

ペリカンやウなどと一緒に、私たちはフラミンゴも見ました。数はかぞえられませんが、10〜15万羽と思われるコフラミンゴを見て、これぞ“フラミンゴの湖”と感激しました。その時にナクル湖のフラミンゴが危機であるとの話もでしたが、ピンクの絨緞のような大群を前にして、何が危機なのかとうわのそらで聞き流してしまいました。その時は1990年、91年と2回もナクル湖のフラミンゴ問題ででかけることになろうとは夢にも思いませんでした。私は気楽な旅行者としてナクル湖を楽しみました。



ナクル湖のフラミンゴ 数は少ない 1991年2月

1990年11月、私は再びナクル湖畔に立ちつづりました。フラミンゴがほとんど見られないのです。その代りに、やたらと個体数が多いのがモモイロペリカンとウでした。湖面にはカイツブリの群も見られます。これは一体どうした事でしょう。今回の私の仕事は、公園に隣接するナクル市からの流入下水が、フラミンゴの生態にどのような影響をおよぼすかを調査することです。ケニア政府からの要請でJICA（国際協力事業団）の調査団の一員として参加しました。

ケニアの生態学者も自然保護活動家も口をそろえて、ナクル湖に流入する水が増えれば生態系が変化しコフラミンゴの餌であるスピリリナが減少し、フラミンゴがナクル湖に住めなくなるというのです。だからこれ以上水を増やしてはいけなくと皆が主張します。私はナクル湖畔のウォーターバックの数や、湖面を利用する鳥の種類や数を見て、現在のナクル

湖の生態系はそんな単純な教科書通りの概念では説明できないと直感しました。

ケニアとタンザニアの国境近くにマガディ湖というソーダ湖があります。湖の大ききからいうとナクル湖の数倍はあります。ここではソーダの採掘が行われていて、ソーダ工場があります。この湖にテラピアという魚の一種が生息していました。ソーダ分が強い水でも生息できる特殊な魚です。1960年代にある英国人がその魚をナクル湖に放したのです。私が思うに、その時からナクル湖の生態系が大きく変わり始めたのです。たった数匹の魚によって、フラミンゴの湖はペリカンの湖へと移行していったのです。1991年2月に再びナクル湖の生態調査を行って、その考えを確かめることができました。ナクル湖で鳥類のカウントを行いました。結果は、コフラミンゴ（8,528羽）、オオフラミンゴ（2,688羽）、魚食性モモイロペリカン（13,600羽）、カワウの亜種（4,015羽）、カイツブリ（1,330羽）を記録しました。一般的に魚食性の鳥類は、1日に体重の約10%の魚を食べると言われています。ナクル湖での上記3種の鳥が1日に食べる魚の量は合計で約14.5トンにもなります。それが毎日です。その他にも魚食性の鳥はナクル湖で生息します。ナクル湖に生息するテラピアの数と量はたいへんなものと考えざるをえません。テラピアは植物プランクトンを主食とすることから、ナクル湖ではコフラミンゴと食物をめぐる競争関係にあるのです。したがって現在ではコフラミンゴの餌となる植物プランクトンの大部分は、テラピアによって消費されてしまっているのかも知れません。

1988年にナクル湖を訪れた時、私はコフラミンゴの大群を見ました。その前年に湖は干上がり、魚のほとんどが死にました。翌年、私の行った時には、まだ魚の数が回復しておらず、湖の昔のままの生態



ボゴリア湖のコフラミンゴの大群 1991年2月

系が再現され、スピリリナが大発生し、フラミンゴの群がやってきたのでしょうか。ナクル湖から約70km程はなれた所に人手の加わらないソーダ湖ボゴリア湖があります。私はそこで100万羽を越すと思われるコフラミンゴの大群を観察しました。ここは昔のままの生態系を維持しています。

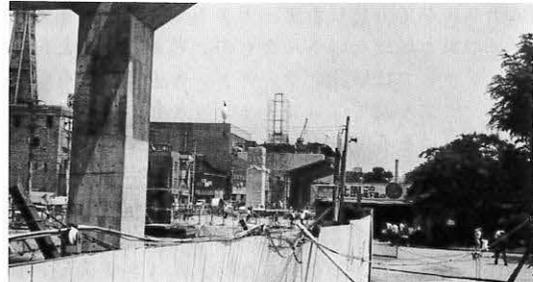
（山階鳥類研究所 資料室長）

33年を振り返って

私が天王寺動物園に奉職したのは、昭和34年5月です。園内の樹木や施設の維持管理を担当する管理係として採用されました。当時の作業は自動車などの機動力もなく、ひたすら人力にたよっていました。午前中は大八車を引き清掃作業、午後は植木の剪定や移植等の作業でした。動物園は戦後15年経過し展示動物はかなり充実してきたものの動物舎はかなり老朽化が目立っていました。

そこで昭和35年から5か年計画で動物舎の建替工事が計画され、檻式獣舎から鉄格子のない掘式の獣舎に建て替えることになり、翌年の昭和36年から工事が始まりました。この計画は当初5か年計画でしたが、予算の都合で7か年に延長され、さらに昭和45年の大阪での万国博覧会の交通網としての阪神高速道路の用地が動物園の西側を通ることになり、結局この計画は9か年計画となりました。

昭和43年から高速道路の工事のため樹木や建物の立ち退き作業が始まりました。高速道路の工事は動物舎の工事と併せて行われましたので園内のあちこちは工事中で、雨が降るとぬかるみができ、入園者



阪神高速道路の工事中の園内

には大変迷惑をかけたことを思い出します。それまでの動物園の西側は大木が繁り、その下には低木が密植され緑豊かな景観をつくっていました。樹木が撤去され、緑多い動物園が緑少ない動物園に変わっていくことをなげかわしく思いました。また、園内には桜の木が多く、春になると入園者に楽しんでいただいていたのですが、その頃から桜が枯れていきました。これも高速道路のもたらした影響ではないかと私は思っています。

動物舎の改築や高速道路の工事ですっかり緑の少なくなった園内はやはりさびしいものです。工事が一段落した後、園内にもっと緑をふやそうということで、園内緑化運動が高まり、早く大きく、早く緑がふえる木としてサワグルミ、アメリカフワ、トウカエデ等が植樹され、なんとか緑陰歩道も確保できました。今後は量から質へ、樹種の変更も考えなければと思っています。

昭和62年には天王寺博覧会が天王寺公園と動物園を会場に行われ、公園と動物園の様相も一変しました。しかし、苦勞の割には博覧会そのものが、成功したと思われていないのは大変残念なことです。

天王寺博覧会が終わり、コアラの来園が正式に決まりました。コアラの食べ物はユーカリの葉だけということで、コアラ受け入れのため昭和59年から鶴見緑地でユーカリの栽培を始めていましたが、平成2年に鶴見緑地で花博が開催されることに決まり、ユーカリの栽培地を撤去しなければならないことになりました。昭和60



沖縄のユーカリ植栽地にて

年から兵庫県の山崎、昭和62年から沖縄県、和歌山県にも代替地を求め、栽培しなければなりません。私も兵庫、和歌山、遠くは沖縄と現地調査で飛び回って植栽の指導をしてきただけに、平成元年に3頭、翌年にも3頭のコアラをオーストラリアのメルボルン動物園から無事に迎え入れることができ一安心しました。それまでの経験からユーカリという植物は寒さに弱く、暑さにも弱い植物で、兵庫と沖縄は植栽場所にもむかないことがわかりました。その後鹿児島県内之浦にも栽培を開始し、現在も日本の各地のコアラ飼育園の情報などをもとにユーカリ栽培の適地を捜しています。現在のユーカリの植栽本数は兵庫県山崎町に3.7ha、11800本、和歌山県川辺町中津村に5.2ha、16,000本、沖縄県名護市に1ha、3,200本、鹿児島県内之浦町に4ha、23,000本となっています。

平成2年2月に天王寺公園と動物園との管理が一体化され、名前も天王寺動植物公園事務所となりました。また、平成3年11月、新事務所が茶臼山に出来上り、総職員数150名という大世帯になりました。最後に昔のことを思い浮かべますと、私たちの詰所は現在の高速道路の高架下で、旧住友倉庫跡でした。2階が飼料倉庫、下が我々の詰所でしたので、食事をしているときもうえからネズミのふんが落ちてきたり、冬はストーブのすすが飛んできたりしたものです。現在のような冷暖房完備の詰所になるとは夢にも思いませんでした。

私も3月末で、無事に退職させていただくことになりました。これも皆様方のご協力があったからのごと深く感謝し、今後の動物園の発展と皆様方のご健康をお祈りして終わりたいと思います。

(管理課、首席主任：西野 均)

動物と共に35年

この度の定年退職にあたり、一筆紙上に記させて頂きます。

私は、昭和32年当時の大阪市土木局天王寺動物園に飼育係員として臨時採用され、34年本務採用となりました。それ以来飼育一筋に30数年思いはつきません。今回無事退職出来ましたこともよき先輩、後輩に恵まれたお陰と感謝しています。

さて、飼育係としての思い出はつきませんが、最初に担当した動物は水禽類で戦前からあったという古い水禽放養舎と6ヶ所の水鳥舎が私の担当でした。当時は全ての建物は古く、金網の補修に追われる毎日でした。また、その頃の飼料は、現在とは比較にならないもので、フスマと大根の葉だけである上に、量も少なく飼育技術もすすんでいなかったため動物達がよく死に、たいへんつらく悲しい思いをしたのを今も忘れることができません。又、今のように園内は舗装されておらず地道でした。飼料の運搬はすべて大八車に積みこみ押していくのですが、雨の日などは、ぬかるみに入りこんで動けなくなりお客様と一緒に押しもらい助けて頂いたことも度々ありました。これが私の3年間の水禽舎の最初の体験でした。その後動物舎も次々と新しく建替られ、動物は勿論、飼育管理もよくなっていきました。今現在戦前から残っている動物舎は、ゾウ舎とホッキョクグマ舎だけとなりました。

ところで、私は、類人猿、小鳥とは虫類以外の全ての動物を担当しましたが、この中で一番長く、そして一番強く心に残っているものはなんといっても18年間のゾウ舎担当です。その中でも昭和58年まで毎年催されていた5月5日の子供の日のゾウの計量でした。昭和52年に常設の電子式の体重計が寄贈されるまで



昭和42年のゾウの計量風景(中央が筆者)

は計量器は仮設で、毎回ゾウ舎へ搬入後、約一週間かけ組立の作業が行われました。この間私共ゾウの飼育担当者は、計量器や組立作業員にゾウがいたずらをしないように全神経をつかい、ゾウを寝室から毎朝足にロープをかけ放飼場の繋留環に連れていき繋留しなければなりません。その時の緊張感を忘れることは、今後もないと思います。その後何人もの後輩指導にたずさわってききましたが、数人の後輩達が、私の目の前でゾウに襲われたことが何回

ありましたが幸い皆軽傷で何よりでした。私自身も間一髪、冷や汗を流したこともありましたが、何事もなく、今回退職を迎えられたことは本当に幸せなことだと思っています。私がゾウ担当を離れる約一年前の昭和49年に東京の上野動物園でゾウによる人身事故が起きました。その数週間後、当時の上野動物園の中川飼育課長(前上野動物園長)が私を訪ねてこられ、当園のゾウの飼育状況について数時間ゾウ舎内で話し合った事も昨日のように強く印象に残っています。そして又、これも忘れることのできないのは昭和49年のエピソードです。アシカの池の清掃の時にその事故はおこりました。生後6ヶ月あまりの赤ちゃんのアシカが、動物舎の不備のため排水口に吸い込まれ近くを流れる下水道の本管に流されてしまったのです。どうしたものかと心配していたところ3日後、現在のフラミンゴ舎前の小さくて深い排水管の中からアシカの子供の鳴き声がするのに気がきました。これはなんとか助けあげなければと意気こんではみましたが、何しろ中が暗くて深く助け出すことができる状態ではなかったのです。それからアシカの池の水を空っぽにして自力で戻るのを期待した1週間後、たまたま私が宿直で朝5時頃だったと記憶しています。アシカ池に行くとなんと排水管に吸いこまれたアシカの子供が、池に戻り母親の横で鳴いていたのです。その時は全く夢のように信じられませんでした。もちろんいつでも池に戻れる様に本管にブロックで階段を作り、万全の準備は整えておりました。又、動物の脱出では昭和43年のニホンザルの脱出事件も印象に残っています。連日連夜、猿島から脱出したニホンザルの捕獲のために市内を駆けずり回った等々思い出はつきません。



65年ぶりにふ化したダチョウのヒナと共に

又最近の思い出は一昨年(65年)のダチョウのふ化に成功無事3羽が育ったことです。昨年はジャガーの人工哺育に成功、そして15年ぶりフラミンゴの誕生と私の飼育活動の人生は本当に幸せでした。こうした活気あふれた日々を送れたのも振り返ってみますと、私をささえてくれた妻の存在があればこそと言わねばなりません。これからの私の人生、妻とふたり仲良く築いていきたいとこの書面に新たな人生をスタートさせることを約束します。

最後に、動物園も新しく動植物公園と生まれ変わりより一層の御発展と皆様様の御健康と御多幸をお祈りいたします。(飼育課、主任：楠本信治)

動物園グラフ

“どうぶつ達のマイホーム”

天王寺動物園では、動物達がより快適に暮せるような環境作りをしています。最近できた新しい動物達のマイホームをご紹介します。(撮影：大谷直樹)



「鳥の楽園」

総面積 3,170㎡で、直径40mと27mのドームをつなぐような形状で、長さは102mあり最高部の高さも20mあります。2階部分の通路から自由に飛びかう鳥を直接見ることができます。60種 300羽以上の鳥が同居しています。

「ヒョウ舎」

建築面積 216㎡のヒョウ舎は3つに区切られ、ヒョウ、ジャガー、ピューマの3種の中型ネコ類を収容しています。ガラス越しに動物を見せる新しい展示形式をとっており、ガラスは10mmの強化ガラスを2枚はりあわせており、地震や石をぶつけた位では割れることはありません。



「レッサーパンダ舎」

総面積225.75㎡のレッサーパンダ舎は、屋外展示室、屋外放飼場、寝室からできています。屋内展示室は冷房完備で、ガラス越しに、動物が見れます。



1月の動物園日記

- 1 / 2. 中山所長の年頭あいさつと動物映画会をレクチャールームで行いました。干支にちなむ郷土玩具展を開始しました。(2月11日まで)
- 1 / 3. 園内でもちつき大会を行いました。カンムリカイツブリを1羽保護しました。
- 1 / 4. アムールトラが交尾しました。
- 1 / 5. フクロウを1羽保護しました。
- 1 / 7. ハワイガンが1羽自然ふ化しました。
- 1 / 8. エミューが今季初めて産卵しました。
- 1 / 9. 昨年生まれのハワイガンのオスを東京都立

- 大島公園に贈りました。昨日産卵したエミューの卵をふ卵器に入れました。
- 1 / 10. ブラジルバクの親子を展示しました。
- 1 / 12. 今年初めてブラックバックの赤ちゃんが生まれました。セグロジャッカルが交尾しました。
- 1 / 16. タンチョウのオスを宮崎のフェニックス自然動物園に貸し出しました。ニホンキジのオスを保護しました。
- 1 / 19. 第81回「動物のお話とスライドの会」で大野係員がサルのお話をしました。
- 1 / 20. ホッキョクグマの“みゆき”が神戸市立王

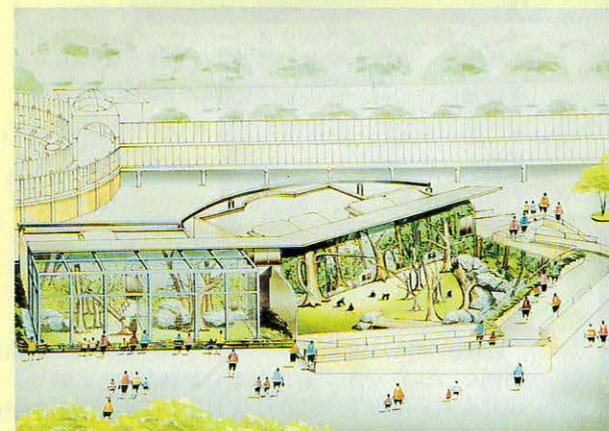


「オオカミ舎」

総面積 669㎡のオオカミ舎は、4つのガラス張りの展示室に、シマハイエナ、チュウゴクオオカミ、コヨテ、セグロジャッカルを展示しています。壁面には、それらの動物が棲んでいる生息地の情景が描かれています。

「コアラ館」

総面積1,330㎡のコアラ館は、140㎡のエアコン完備の室内展示室の他、4室の予備室、2室の隔離室、コアラの餌のユーカリを貯蔵する保冷库と管理監視室があります。



「チンパンジーオランウータン舎」(仮称)

総面積915㎡の内、310㎡がチンパンジー舎で、地下4mまで掘りさげ遊歩道の下の通路からも、観察できるようにし、さらに地面を草におおわれるようより自然に近い形に設計されています。(平成4年6月完成予定)

- 子動物園に出園しました。マナヅルのオスを埼玉こども動物自然公園から借り入れしました。
- 1 / 21. ホッキョクグマとの交換でオウサマペンギン1羽とファンボルトペンギン3羽が神戸市立王子動物園から来園しました。ヒツジのメスが1頭生まれました。
- 1 / 23. 昨年7月26日に出産を確認したコアラの“ミドリ”の赤ちゃんの手足の一部が育児嚢から出ているのがビデオで観察されました。
- 1 / 26. 定例飼育研究会を開催しました。
- 1 / 27. 出産のため別居させていたホッキョクグマのオスとメスを1年2ヶ月ぶりに同居させ

- ました。
- 1 / 28. シロハラを1羽保護しました。
- 1 / 29. 20日に来園したマナヅルとナベヅルの見合いを開始しました。
- 1 / 30. ニホンコウノトリ4羽の染色体による性別鑑定ため採血と皮膚の採取を行い、同時に外部測定も行いました。
- 1 / 3. ジャガーの赤ちゃんが2頭生まれましたが、1頭は惜しくも死亡していたので、残る1頭は人工哺育に切り替えました。オカヨシガモのオスを1羽保護しました。

“花壇と噴水”

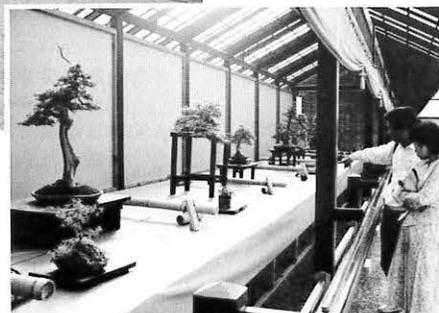
春です。
寒い冬も終り、草木の芽も日増しにふくらんで、植物の力強さと自然の面白さ、不思議さを感じられます。
この季節になりますと色々な植物が芽を出し花が豊富に咲きますが、ここ天王寺公園「沈床花壇」では昨年十二月中頃に定植しました「パンジー」（三色すみれ）が、花壇いっぱい春の暖さを感じさせてくれます。



「草つげ」で唐草模様で作られた沈床花壇です。
次に、噴水池では、色々な種類の噴水があります。何れの噴水にも一つ一つの特徴があります。
噴き上げられて落ちる時の「水玉」に春の日差をあびて、キラキラ光る、光の競演、石柱から湧く水の「音」、噴霧による「虹」の演出が最高に心をなごませてくれます。
時には、噴水が造り出す「水」の面白さ、不思議さを眺めながら一時を過されてはいかがですか。
(山元貞幸)

催 展 示 場

開場当初は慶沢園内に組立式の屋形小屋を催しあるごとに私達の手で建て、春には日本桜草展、春の盆栽銘品展など催し入園者に楽しんでいただいております。



現在は、古代と現代を調和した建物が植物温室と美術館との中間に1,100㎡の会場があります。
一度、ご覧になり趣味を一つ増していただき、又、今趣味にしておられる方も一増深めて、いただきたく思います。
(山本貞幸)

★ 催物紹介(予定)

- イ. 第19回春の盆栽銘品展
4月1日(水)～4月5日(日)
- ロ. 春季盆栽銘品展
4月8日(水)～4月12日(日)
- ハ. 春の山野草展
4月26日(日)～5月5日(火)
- ニ. 書と緑展
5月12日(火)～5月17日(日)
- ホ. 第32回関西つき大展示会
5月22日(金)～5月31日(日)
- ヘ. 秋の山野草展
9月20日(土)～9月27日(日)
- ト. 第33回関西盆栽美術展
10月3日(土)～10月11日(日)
- チ. 第61回大阪菊花大会
10月22日(水)～11月15日(日)

§ コアラ、はじめての誕生

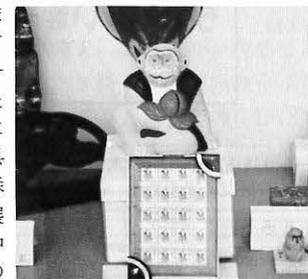
当園では、コアラの飼育は平成元年6月にオーストラリアのメルボルン動物園から、オス“メル”、メスの“テラ”、“ララ”の3頭のビクトリアコアラの寄贈を受けたのを皮切りにし、翌平成2年4月にも、オスの“ハク”、メスの“ハナ”、“ミドリ”が来園し、計6頭で始まりました。この間、3歳になる“ミドリ”に平成3年4月頃から約1か月間隔で定期的に2～3日続く発情が見られるようになりましたのでオスの“ハク”と同居を試みたところ、6月22日に交尾が確認され、7月26日には、お腹を丸めて体をふるわせるというコアラ特有の出産行動が認められました。その後、11月中旬から“ミドリ”のお腹のおなかの袋に赤ちゃんをもつ“ミドリ”袋が少しずつ大きくなり、12月に入ってから、袋のふくらみがさらに目立つようになり、モコモコと動いているのも観察されました。



コアラの赤ちゃんは、出産後5か月頃から、手や足をときに袋から出すようになり、6か月頃から顔を出すといわれています。今回のコアラは7月26日に出産したので、生後7ヶ月を過ぎる本誌発行時には、母親の袋から顔をのぞかせているかわいいコアラの赤ちゃんをご覧いただけることでしょう。

§ 「サルにちなむ郷土玩具展開催

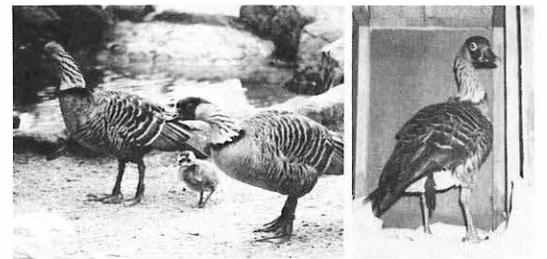
毎年、干支(エト)にちなんだ郷土玩具展を、1月2日から2月11日まで展示館で開催していますが、今年は「サル」をテーマとした郷土玩具の他エトにちなんだ動物の玩具を中心に252点(青森他36県の玩具)を展示しました。この中には昔話の主人公の玩具なども加えられ、切手のデザインに採用された滋賀県の小橋持ちち様より親しみのある展示となりました。なお、今回展示された郷土玩具は京都市在住の平田嘉一氏より出展していただいたものです。



§ ハワイガンのふ化と婿入り

1月7日、寒さの中でハワイガンのヒナが1羽、両親のもとで元気にふ化し、順調に育っています。この両親のもとにはこれまで平成元年以来5羽がふ化、成育しており、今回のハワイガンは昨年12月産

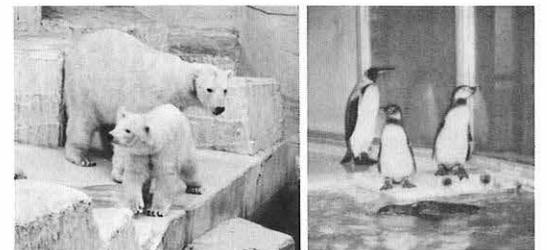
卵した2卵のうち、1卵がふ化成育したものです。なお、この昨年生まれのヒナは1月9日、東京都のズー・ストック計画にのっとりハワイガンを集めている東京都立大島公園へ婿入りしました。



ハワイガン親子(左)と婿入りした個体(右)

§ ホッキョクグマとペンギンの動物交換

1月20日、当園生まれで1歳になるホッキョクグマの“みゆき”が、神戸市立王子動物園にお嫁入りしました。王子動物園には“みゆき”と同じ歳の釧路動物園生れのオスが飼育されており、似合いのカップルになってくれることでしょう。



王子動物園へ嫁入りした“みゆき”(左)と来園したペンギンたち(右)

一方、王子動物園からは1月21日、オウサマペンギン1羽とフンボルトペンギン3羽をいただきました。これで当園のオウサマペンギンは3羽、フンボルトペンギンは6羽となりましたので、今後の繁殖がより一層期待できそうです。

◎ お知らせ

- 動物のお話とスライドの会
3月15日(日) コアラのお話
4月19日(日) 小鳥のお話
時間：午後1時～2時
場所：レクチャールーム。

◎ テレホンサービス実施中

催し物、トピックスなど魅力たっぷりの動物園の案内を、24時間テレホンサービスで行っていますので、ぜひご利用ください。
電話番号 771-9999

● 休園日のお知らせ ●

動物園の休園日は毎週月曜日(休日の場合は翌日)です。
開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時まで入園できます。

現在の飼育動物数

(平成4年1月31日現在)			
哺乳類	12目	91種	445種
鳥類	20目	169種	811点
爬虫類	3目	33種	92点
合計	35目	293種	1348点

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑 一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修
B5変型判・オールカラー
定価600円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをし
ているのか？ 動物園での世話
の仕方は？ 仲間とは？ など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

くらしといかたシリーズ<既刊本>
B5変型判・オールカラー・各定価580円

むし くらしと いかた

野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきもの くらしと いかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

室内装飾設計施工・バラエティ雑貨卸

1st ファースト商会

〒559 大阪市住之江区平林南1丁目2番57号
ヘッドビル202号
TEL 06-686-4033 FAX 06-686-4032

オートフォーカスカメラに



フジカラー SUPER HG 400

ピントが合いやすいフィルムです

カラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
阪急三番街店 ☎372-5031
OHVAC店
（ギャレ大阪） ☎346-7606

全国の愛犬家の共感を呼ぶ無比の愛犬歌集

絶賛四版

歌集 犬の歌

平岩米吉著

著者が、約四十年の間に、共に暮らした七十余頭の犬の生と死
を歌った四百十九首を収録。同時に、その誕生より老齢に至る
写真四十七図を収めた、犬の一生の生態写真集でもある。

天金・美装箱入
B6判・270頁
3000円・〒不要

《感動の言葉》

- ☆ この歌は愛犬と異体同心の境地である。（英文学者）
- ☆ 人として注ぎ得る愛情の極致を示している。（動物研究者）
- ☆ 一首ごとに、ことごとく魂にひびく歌です。（動物愛護家）

●本書は、書店ではお買い
求めになれません。
直接当会へお申し込みく
ださい。

〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 動物文学会 電話(03)717-1659/振替・東京5-9800

新作

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」
19分(10本常備)

天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料480円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキで
お申込下さい。

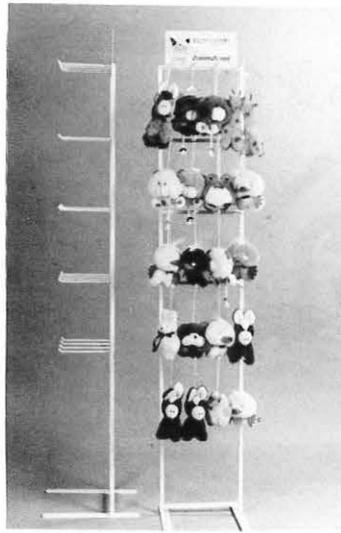


コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

オールカラー

500円 園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

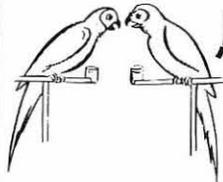


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

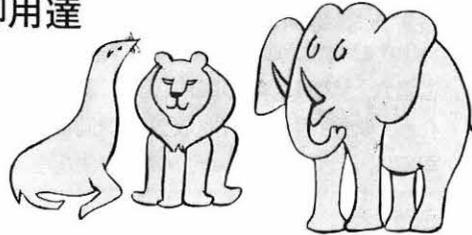
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06) 704-8580
FAX: (06) 704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

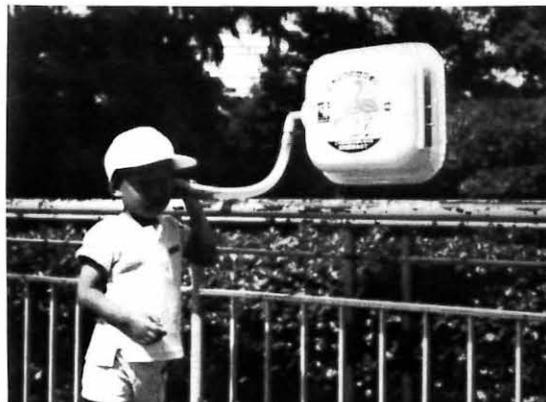


有限会社 **吉川商会**

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、ご休憩は

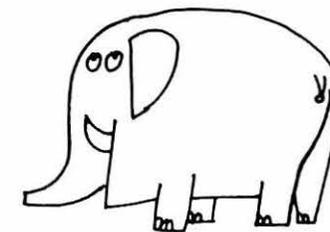
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎ (06) 771-0973



天王寺動物園内



南園売店

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内での写真は...

動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願い致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社

TEL 06-856-7444



Our Yogurt has fruity
and rich texture!!

“生イキヨーグル”と
覚えてね。



しほりたてミルクのおいしさが、生きている。

雪印
ヨーグル

希望小売価格 130g/各120円 250g/各220円(税別)



HIJIRI-KOJIMA

一日
愉快地
たのしめる!!



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ 1992年3月10日発行(毎月10日発行)第28号 第3号 (通巻319号)

編集/大阪市天王寺動植物園事務所

発行人/大阪市天王寺動物園協会 土井良彦

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 3-3 7823

編集委員

(中山良三郎/村上昭/中尾啓一/樽本勲/中川哲男/吉本昌俊/山根和弘/大谷直樹/宮下実/長瀬健二郎/榎原安昭)
(森本委利/竹田正人/永田健一/前田茂/大野尊信/野口秀高/早川篤/赤松健/大川光雄/土谷正道/山本貞幸)